

---

平成 28 年

# 12 月の普及活動状況

---

## ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

## 活力ある新産地づくり

### 中濃農林■ゆず 6次産業化ブラッシュアップ会議開催

現在、かみのほゆず（株）では、六次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画の作成を進めており、今後、ゆずの生産量増加に伴い増加する搾汁後残渣を活用したペーストの加工販売を計画している。

12月16日には、東海農政局、関市農務課、県農産物流通課、中濃農林事務所が出席してブラッシュアップ会議が開催され、事業背景や取り組み内容、設定目標等について、それぞれの立場でアドバイスをを行った。農業普及課では、計画の目標達成に向けて栽培技術、会社運営、販路拡大の支援を行っていく。



【ブラッシュアップ会議】

### 郡上農林■夏秋いちご 郡上市農業振興大会で産地支援の取組みを発表

12月3日郡上市白鳥町の白鳥文化ホールにおいて、郡上市農業振興大会が開催され、郡上市内の農家等約300人が参集した。農業普及課は農業振興事例発表にて「夏秋いちごのブランド力向上～持続可能な成熟産地へ～」と題して、ひるがの高原いちご組合への普及活動成果について報告した。

この中で夏秋いちごの安定生産に向けた栽培技術の構築、加工など新たな販売方法の検討、新規就農者の育成について説明し、単収・単価とも目標に近づき次世代リーダーも育ちつつある事を発表した。

農業普及課では、夏秋いちごを重点品目に位置づけ、新産地づくり地域活性化推進事業を活用し支援しており今後も支援を継続していく。



【普及指導員の発表風景】

## 多様な担い手づくり

### 中濃農林■新規就農者確保 管内農業の現地巡回学習会

12月8日に、将来の地域農業の担い手確保・育成を目的に、県立大垣養老高等学校の1、2年生の希望者23名を対象とした現地学習会を開催した。

管内の先進的な経営体の(有)プロメリア・ギフ（花き）、岐阜県就農支援センター（トマト）、(有)福江営農（土地利用型）、(株)安立ファーム（肉用牛）、(有)とり沢（6次産業化）、(有)健康やさい村（葉菜）を視察し、経営主や、農業高校出身の従業員等の説明を、関心を持って聞き入っており、将来の担い手の確保に期待の持てる学習会となった。



【(有)プロメリア・ギフ】



【岐阜県就農支援センター】



【(有)福江営農】



【(株)安立ファーム】



【(有)とり沢】



【(有)健康やさい村】

### 揖斐農林■アスパラガス 2016帰農塾すべての課程を修了

農業普及課、アスパラガス部会の協力のもと JA いび川が主催で開催してきた「アスパラガス帰農塾」は、第4回(12月17日実施)をもって、視察研修を含む全5回の課程を修了した。

第4回目は、収穫終了後の冬季管理について講義を行い、実習では冬季管理の最初の作業となる刈取り、土壌表面焼却を実施した。また修了式として部会長から塾生に修了証を手渡し、塾の満足度や作付意向に関する調査を行った。その結果、講義実習の内容には充分満足いただき、特に実習は理解を深めるために役立ったと評価が高かった。本年度の塾生は9戸、うちすでに栽培を開始した人および今後栽培したい人は計5戸であった。

今後は作付への誘導、部会活動を通じた支援を行い、産地拡大につなげていきたい。



【修了者一同で記念撮影】

### 可茂農林■指導農業士 加茂農林高校で第2回井戸『畑』会議を開催

可茂地区指導農業士会は、12月2日、お茶を飲みお菓子を食べながら井戸端のような気軽な雰囲気で見聞交換する、井戸『畑』会議という名の交流会を開催した。

参加者は、指導農業士8人、加茂農林高校生産科学科の2年生21人、1年生4人で、4テーブルに分かれて意見を交換した。

現3年生は、昨年度の第1回に参加して農業と就農への関心を高めた影響もあり、農業大学校に進学する生徒が前年の倍以上にあたる10数人に増える見込である。

こうした取り組みは生徒の選択肢が広がることに加え、指導農業士にも経営意識の向上につながることから、農業普及課では来年度以降も継続して支援していく。



【熱心に聞き入る高校生】

### 下呂農林■担い手 下呂市長と語る会を開催

下呂市の主たる農業者が市長と意見交換し、農業・農村振興のための課題解決や活動方針等について検討することを目的に、下呂市営農推進協議会は12月19日に市長と語る会を開催した。新規就農者や研修生、関係機関を含めて約70人の出席があり、各生産組織及び新規就農者から現状報告と提案等があった後、意見交換を行った。その中で、中山間地域農業の困難さや高齢化・担い手不足等の課題の他、トマト集出荷施設の更新、新品目への取組み、新規就農者の増加傾向、各種米コンクールでの上位入賞など、明るい兆しが見える報告もあった。

市長等からは、新規就農者等に対する営農定着並びに経営安定化の支援、産地基盤の強化、ブランド化の促進、観光業との連携などが述べられた。

農業普及課は、関係機関等との連絡調整及び運営を支援した他、今回出された意見を踏まえて地域の発展に向けた活動を関係機関と一体になって進めていく。



【意見を述べる新規就農者】

## 飛騨農林■担い手 **就農に向けてパワーアップ！！**

飛騨地域農業再生協議会（人・農地プロジェクト）では、次年度以降に飛騨及び下呂管内で就農予定の長期研修生及び研修予定者、就農3年目までの農業者35名を対象に「飛騨就農支援塾」を開催している。この研修会は、岐阜県農業会議が11月～2月にかけて毎週水曜日午後13時開催予定の複式簿記講座に併せて企画したものである。

初回の11月30日には、農業普及課から「飛騨農業の歴史」、中山間農業研究所から「試験研究の取り組み」、高山市のトマト農家長谷川勉氏から「トマトで飯を食う」をテーマにした講義を、2回目は「安全な農業機械操作・メンテナンス」をテーマに、JAひだ農機センター、農機具メーカー等による実技研修を行った。

今後も、外部講師や行政、JA等の関係機関の協力を得ながら、植物の生理生態、ハウスの建て方、労務管理や経営管理、GAP、ぎふクリーン農業、土壌診断、病害虫対策、農産物流通等、就農に必要な幅広い知識の習得を目指している。

農業普及課では研修会の企画・運営を主体的に行い、新規就農者の定着を図っている。



【安全な農機操作を学ぶ】

## 売れるブランドづくり

### 岐阜農林■祝だいこん **目揃会を開催し、出荷始まる**

12月16日に、JAぎふ則武支店において、生産者、市場関係者、JAぎふ担当者など約60名が出席し、祝だいこん目揃会が開催された。JA全農岐阜担当者から、競合産地動向や市場からの要望数量などについて情勢報告を受けた後、JAぎふだいこん部会役員から今年の規格表の説明があった。

役員からは、「祝だいこんの規格には優品はない。規格に合わないものは、ちゅうちょなく破棄して欲しい。」など選果・選別の徹底と規格の遵守を促す発言があった。

農業普及課からは、今年のは種前後の天候を振り返り、現在白さび病が発生していることなどの情報提供を行うとともに、昨年実際にクレーム品となった写真を示し、岐阜に対する消費者の信頼回復には、生産者全員が規格を守ることが重要であることを強調した。

祝だいこんの出荷は12月21日から始まり、大阪市場に向け約72万本が出荷される予定である。



【目揃会の様子】

### 東濃農林■アスパラガス **研究会開催**

瑞浪市山田町のアスパラガス栽培農家において、12月14日に参加者17人でアスパラガス研究会を開催した。

今回は、実際の栽培農家を講師として、冬期の管理を中心に話合った。

当地区のアスパラガスは主に直売所で販売されているが、品薄状態が続いている。また、地元のレストランなど飲食店などにも一部個人的に出荷されているが、地元の野菜ということでもっと使いたいと要望も多い。

そこで、農業普及課としては、今後さらに新規の栽培者及び生産量の増加、地元レストランへの出荷など出荷先の多様化などにより、アスパラガスのブランド化をすすめていく予定である。



【研究会の様子】

## 恵那農林■夏秋トマト・夏秋なす 東美濃夏秋トマト・なす生産協議会生産販売会議 ～今年度の生産販売を振り返り、次年度対策を明確～

恵那地域の夏秋トマト及び夏秋なすは、11月中旬に出荷が終了し、12月6日には東美濃夏秋トマト生産協議会、13日には東美濃夏秋なす生産協議会の生産販売会議がそれぞれJAひがしみの本店で開催され、今年度の生産販売の総括が行なわれた。

トマトについては、生産者数・面積が微減する中、JAと農業普及課が一体となり、きめ細かな肥培管理や病虫害防除指導、さらには若手生産者のレベルアップ支援の効果も表れ、平均単収は10トン/10aと近年にない良好な結果となり、前年並みの単価により販売金額は6億円を突破した。

夏秋なすは、産地の規模を維持し、平均単収も6.8kg/10aと前年より向上したものの、単価が前年対比81%にとどまり、販売金額としては伸び悩む結果となった。

本年は9月の多雨・日照不足、うどんこ病やホコリダニ類の多発など栽培管理面に苦慮したが、栽培履歴データを活用した管理指導によって収量が向上したことから、次年度の普及活動につながる成果が得られた。

農業普及課では、今後のトマト・なすの安定生産に向け、本年の結果をふまえながら次年度の普及指導活動を計画する。



【会議風景（夏秋なす）】

## 農業経営課■酪農 飛騨酪農協生産者技術研修会

12月13日（火）高山市の飛騨酪農農業協同組合研修室において生産者技術研修会が開催され酪農家等19名が参加した。研修会では農業経営課革新支援専門員が「分娩前後の飼料給与と最近の話題」と題した講演を行い、高泌乳牛を健康に飼育するために必要な分娩前後の飼料給与技術や乳汁を使った妊娠診断、乳房炎ワクチン等の最新の酪農技術を紹介した。全国的な乳牛飼養頭数減少により初妊牛（妊娠中の未経産牛）価格が過去最高価格を更新する中、飼育している乳牛の事故や病気を防いで生産寿命を延ばすことが喫緊の課題となっており、高泌乳牛の疾病防止に必要な分娩前のカリウム制限、ビタミンD、カルシウム、微量ミネラル等の積極的給与について熱心な質疑応答が交わされた。厳しい酪農情勢を乗り切るため、飛騨酪農協では今後も定期的に技術研修会を開催する予定としている。



【生産者技術研修会】